

2021 年度 事業報告書

自 2021 年 4 月 1 日
至 2022 年 3 月 31 日

公益財団法人日本テレビ小鳩文化事業団

2021年度 事業報告

2021年4月1日～2022年3月31日

1. 視聴覚障害者の日常生活の支援及び生活支援の援助者養成

(1) 手話放送番組の制作支援

日本テレビのニュース番組「NNNニュースサンデー」の手話放送に出演する手話通訳士の派遣事業。当該番組は、毎週日曜午前6時15分～6時30分、全国ネットで放送している。手話通訳を、画面右下にワイプで挿入している。

2021年度も東京都聴覚障害者連盟から推薦を受けた4名の手話通訳士の皆さんが、ローテーションで年間52回の手話放送に携わり、聴覚障害者の方々への情報サービスを行った。

(2) 点字カレンダーの製作及び無料配布

点字カレンダーは、1976年より制作を開始し、全国の視覚障害者の方に無料配布して以来、46年間継続している基幹事業である。

毎月、美しい写真と点字による解説文を付けて、晴眼者と視覚障害者とのコミュニケーションを深めていただく願いが込められている。2022年版のテーマは、「灯台のある風景」。約2万部を製作。日本点字図書館の協力で、全国視覚障害者学校、視覚障害者養護施設、視覚障害者福祉関係団体、在宅視覚障害者に無料配布した。また、日本テレビネットワーク各社の協力を得て、関東以外の全国各地で別途約2万部の無料配布も行った。

(点字製作：日本点字図書館 写真撮影：岩本圭介氏 デザイン：神馬俊二氏)

(3) 手話スクールの開講と手話の普及事業

手話スクールは、1975年に開講して以来、現在まで毎年継続している基幹事業である。手話ができる人を一人でも多く増やし、手話を通じて聴覚障害者とのコミュニケーションを深め、生活支援に貢献してもらうことを目的としている。

入門編・基礎編の1, 2年生、上級編である3年生の講座を行っている。

2021年度は、4月2日(土)に開始予定だったが、コロナの影響で3か月遅れの7月3日(土)にスタート。その後もコロナの影響で休講が続いたため、すべての講座を年度内の3月までに終えることはできず、6月までの講座となった。

以下、2021年度の状況を記す。

7月3日(土) 始業式、対面授業 10日(土) 対面授業

7月17日(土) から9月25日(土) 休講

10月2日(土) から1月8日(土) 対面授業

1月15日(土) から2月26日(土) 休講

3月5日(土) から3月19日(土) までは、オンライン授業を決断して導入した。 パソコンやIT環境が整わない方には、対面での授業を行うこととして、「オンライン授業」と、「対面授業」の「両面」での授業体制とした。

「両面」での授業は、費用面では2倍以上になるが、コロナ禍の中でも「手話の学びの場」を絶やさず行うために踏み切った。

今後は、コロナの状況によってはオンライン授業も行いながら手話の講座を休講せずに継続していく方針である。

首都圏の手話講習会がコロナの影響で休講する中、日本テレビ小鳩文化事業団の手話スクールは、数少ない貴重な手話の講習会となっている。

土曜日(1年生 13:00~14:30、2年生 14:50~16:20、3年生 14:00~16:00)に開講している。

会場： 7月～12月 地下鉄四谷三丁目駅近くの会議室

1月～ JR神田駅近くの会議室

講師： 1年生, 2年生 田原 直幸

3年生 目黒 和子

助手： 1年生, 2年生 村山佳子、田野美佳

3年生 黒澤るみ子

生徒数： 1年生 36名、2年生 28名、3年生 15名

(2022年3月31日現在)

24時間テレビへの協力は休止

毎年、手話スクールの手話コーラス部員6名が、「24時間テレビ」に出演していたが、コロナのため2年連続休止。聴覚障害者の来場に対応するための手話通訳ボランティアの活動も休止となった。

(4) 視覚障害者に向けて ～ラジオ番組からの情報発信と「音声図書」の制作へ

視覚障害者に役立つ情報や、晴眼者にとっても有益な情報を発信する、ラジオ日本のラジオ番組「小鳩の愛」を2014年4月より放送開始。丸8年が経過した。

2022年度は9年目を迎える。毎週土曜日の朝8時15分から30分まで放送。ラジオ日本と富山県をカバーする北日本放送（KNBラジオ）でも放送されている。

メインパーソナリティは、日本テレビの杉上佐智枝アナウンサー。

また、2年前より温めていた番組連動企画として、視覚障害者のための「音声図書」を日本テレビアナウンサーの協力により3月から制作を開始した。

日本点字図書館の音声図書ネットサービス図書館「サピエ」や、CDでの貸し出しを通じて、視覚障害者の方のための音声図書を提供していく。

しかし、毎年行っていた番組連動企画のイベントは、新型コロナウイルス感染防止

のために、行うことができなかった。

2. 視聴覚障害者を支援する団体への助成

(1) 聴覚障害児の学校への助成

助成先：学校法人日本聾話学校

毎年、開催されていた日本聾話学校の臨時学校へ助成してきたが、コロナのため臨時学校は休止。奨学金や課外活動への助成を行った。

(2) 視覚障害者福祉DVDの製作及び生活支援活動への助成

助成先：社会福祉法人日本盲人職能開発センター

1) 視覚障害者福祉ボランティア指導用DVD制作への助成を実施。

2021年度は、「～共に生きる～視覚障害者自立（生活）訓練と就労継続支援～東京都盲人福祉協会（都盲協）の活動～」をテーマにしたDVDを制作。

2) 下記 福祉講演会の出張旅費への助成（2021年4月1日～2022年3月31日）

NO	開催日	場所・内容	対象者	内容	備考
1	2021年 11月10日 ～ 11月12日	(大阪市) 視覚障害・就労支援者講習会 日本ライトハウス	職員・障害者・ ボランティア	福祉講演 映画	ガイドブック 配布
2	2022年 2月16日 ～ 2月18日	(福岡市) 視覚障害・就労支援者講習会 アクロス福岡にて	職員・障害者・ ボランティア	〃	〃

3) 福祉映画利用相談及び貸出諸費への助成

4) 貸出ビデオ更新費への助成

(3) 「盲人との接し方」ガイドブックの製作への助成

助成先：社会福祉法人日本盲人職能開発センター

小冊子「盲人に接する人々のために」は視覚障害者との接し方をイラストを交えて分かりやすく解説したもの。1万部を製作し、視覚障害者の福祉講演会や映画会会場のほか、都道府県・市町村役場の福祉課にも配布した。

(4) 点字技能検定事業（検定試験）への助成

助成先：日本盲人社会福祉施設協議会

日本盲人社会福祉施設協議会が主催する点字技能検定試験の事業に助成した。この検定試験は、全国の点字に関する卓越した知識、技術を持つ方に対し、点字技能検定を受ける機会を提供し、点字技能師の資格を付与している。

点字関係職種の専門性と社会的認知度を高め、点字の普及と質の向上を図り、視覚障害者に的確な情報を提供することを目的としている。

2021年度の第21回点字技能検定試験は、11月21日（日）に、東京、大阪の2会場で2年ぶりに行われた。

(5) 視覚障害者ケア専門技術認定講習会への助成（コロナのため休止）

助成先：全国盲老人福祉施設連絡協議会

毎年、都内で開催していた視覚障害者ケア専門技術認定講習会は、コロナ感染防止のため、2年連続休止となった。

（この講習会は、全国の盲養護老人ホーム・聴覚障害老人ホーム及び特別盲養護老人ホームにおける視覚・聴覚障害者へケアをする専門職としての知識と専門的サービスの技術を取得し、施設におけるサービスの向上を目的として毎年開催しているものである。）

(6) 角膜移植・再生医療への助成 (コロナのため休止)

助成先； 移植・再生医療を支える会

視覚障害者治療に貢献することを目的に、複数の大学病院の角膜移植・再生医療・I P S細胞研究およびアイバンクの促進のためのチャリティイベント「PARTY for VISION」へ助成してきたが、コロナ感染防止のため、2年連続休止となった。

(7) その他の助成

- ・聾者の団体が主催する野球大会への助成

助成先：全日本ろう社会人軟式野球連盟

- ・チャリティ映画会開催に助成 (映画のチケット購入)

助成先：日本点字図書館、日本聾話学校

- ・本間一夫文化賞に助成 (記念品代)

助成先：日本点字図書館

- ・東京都盲人福祉大会に助成

助成先：東京都盲人福祉協会

- ・失明原因の解明と失明予防・知識の普及と啓発を図る活動への助成

助成先：日本失明予防協会

- ・東京都社会福祉協議会関係会費

助成先：社会福祉法人 東京都社会福祉協議会

- ・視覚障害者のテニス大会「ブラインドテニス大会」への助成

助成先；日本ブラインドテニス連盟

3. 文化及び芸術に関する各種の公演、講座等

(1) グランプリ・コンサート 2021 は休止 (公財) 日本室内楽振興財団と共催

5月に開催予定であった、第10回大阪国際室内楽コンクール・フェスタは、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、海外からのアーティストを招いてのコンクールそのものができなくなり2年連続中止となった。そのため、コンクールで優勝したアーティストを招聘してのグランプリコンサートも、開催中止となった。

(2) 第15回思い出の詩コンサート 奈良県大和郡山市で開催 (企画、主催)

世代やジャンルを超えて将来も残していきたい、歌い継いでいきたい日本や海外の名曲を選曲。音楽の楽しさ、素晴らしさ伝えていくコンサート。

今年も、日本の最高峰のポップスボーカルグループ「サーカス」の中心メンバーであった、夫婦デュオの「2VOICE」(叶央介、原順子)出演によるコンサートを奈良県大和郡山市にて行った。また、1年間ほとんど活動できなかった地元の大和郡山市の三の丸少年少女合唱団が参加して共演。貴重な経験となった。

「音楽の黄金時代」と言われる、1960年代から70年代のポップスの名曲を中心に、海外の名曲も散りばめて選曲、構成した。

会場は、奈良県大和郡山市 DIG MORI やまと郡山城ホール大ホール。
2021年もライブコンサートの開催は、厳しい環境が続いたが、感染防止を徹底させて実現。大和郡山市民のみなさんが、2時間あまり、貴重な名曲のライブコンサートを心ゆくまで堪能した。

開催日：2021年12月25日(土)

会場； 奈良県大和郡山市 DIG MORI やまと郡山城ホール大ホール。

入場者； 約400名。(感染防止のため、定員の半分以下で開催。)

3) 想いで詩コンサート特別企画・「大木トオルセラピードッグ講演会、チャリティライブ」を開催（企画、主催）

想いで詩コンサートのスピノフ特別企画として、「大木トオル セラピードッグ講演会&チャリティライブ」を開催した。

日本における犬・猫殺処分ゼロ運動のパイオニアであり、殺処分寸前の多くの犬を救い、セラピードッグとして育てる献身的な取り組みを30年以上行っている、ブルース歌手大木トオル氏の講演会とチャリティコンサートを企画し、開催した。昨年1月開催予定だったが、直前に延期となっていて、7月11日に実現した。

開催日時； 7月11日（土）

開場； 東京大手町 よみうり大手町ホール

後援； 読売新聞社

同じく 想いで詩コンサート特別企画として、東京青梅市にある視覚障害者養護老人ホーム「聖明園」曙荘における福祉コンサートを3月に予定していたが、コロナのため、9月へ延期となった。

（3）スクールコンサート 岡山県、山梨県、福島県各地で開催

次代を担う小・中学校の生徒を対象にして、クラシック、映画音楽、ミュージカル、ジャズ、日本や海外のポップスなどジャンルを超えて、様々な音楽の素晴らしさをライブで楽しんでもらうコンサート。プロのライブの音楽に触れ、豊かな感受性を育んでもらうことが目的。

また、プロの演奏を聴くだけでなく、地元中学校の吹奏楽部や少年少女合唱団が、プロの演奏家と共演する「参加型コンサート」も、このスクールコンサートの大きな特徴である。

2021年度は、

1) 10月22日(金) 岡山県勝央町勝央文化ホールにて開催

岡山県勝央町立勝央中学校吹奏楽部が参加。

一流のプロの演奏家が共演。全校生徒 約450人が鑑賞。

2) 10月29日(金) 山梨県南アルプス市立楡形中学校体育館にて開催

南アルプス市立楡形中学校吹奏楽部が参加。

一流のプロの演奏家が共演。全校生徒 約500人が鑑賞。

それぞれ、各中学校吹奏楽部の生徒がプロの演奏家と共演し、全校生徒がライブの音楽を堪能した。活動自粛が続いた中、生徒にとってはとても貴重な体験となった。

3) 3月27日(日) 福島県白河市白河文化交流館コミネス大ホールにて開催した。

地元白河市民によって昨年6月結成された白河コミネス交響楽団の大学生有志、郡山市の小・中・高・大で結成された弦楽合奏団、福島中央テレビ郡山少年少女合唱団が参加し、一流のプロの演奏家と共演。

白河市民約400人が鑑賞。

地元福島県の若い世代で構成された弦楽合奏団と合唱団が、一流のプロの演奏家と共演し、華やかな「管弦楽」のコンサートになった。

若い世代の彼らにとっても、とても貴重な音楽体験となった。

スクールコンサートのスペシャル企画であり、福島県の地域密着のコンサートとなった。

一方、下記スクールコンサートは、残念ながら休止もしくは延期となった。

・7月24日(土) 福島市立第一中学校、蓬萊中学校

・10月3日(日) 佐賀県嬉野市立嬉野中学校

- ・ 11 月の東京筑波大学附属視覚特別支援学校。
- ・ 2 月 17 日（木）岩手県釜石市釜石市民ホール。釜石中学校ほか 4 校。
- ・ 2 月 26 日（土）愛知県岩倉市立岩倉中学校、南部中学校→来年 2 月に延期

（４） 聲明公演 は、休止。

日本音楽の源流といわれる「聲明」を日本の伝統文化と捉え、次代に継承することを目的としたコンサートが、1 月 22 日（土）予定していたが、直前のコロナ感染急拡大のため、やむなく 2 年連続休止となった。

4. 文化及び芸術に関する事業、活動への助成

（1）「第 73 回 高円宮杯全日本中学校英語弁論大会」は、オンラインで開催

助成先：日本学生協会基金

1949 年という戦後のまだ混乱期に、今後の日本の将来を見据え、将来の日本を担う国際性豊かな青少年を育てるためには英語教育が必要である、という理念のもと立ち上げられた全国の中学生の英語弁論大会。

2021 年度は、コロナの感染防止のため、オンラインによる開催となった。